



# 個人化と福祉国家

---

税制調査会基礎問題小委員会  
平成16(2004)年6月1日

東京大学・大学院人文社会系研究科  
武川 正吾

1



## 内容

---

- 日本の福祉国家
- 個人化とは？
- 個人化現象の諸相——自立と排除
- 個人化現象への対応——再編と包摂
- 結び

2



# 日本の福祉国家

---

3



## 福祉国家とは？

---

- 国家目標としての福祉国家
  - → 福祉政治
- 給付国家としての福祉国家
  - → 再分配構造
- 規制国家としての福祉国家
  - → 規制活動の構造

4



## 福祉国家レジーム論争

---

- 日本は
  - 保守主義レジーム？
  - 自由主義レジーム？
  - 保守主義と自由主義のハイブリッド？
  - 儒教型福祉国家？

↓

- 虚偽問題

5



## なぜ虚偽問題か？

---

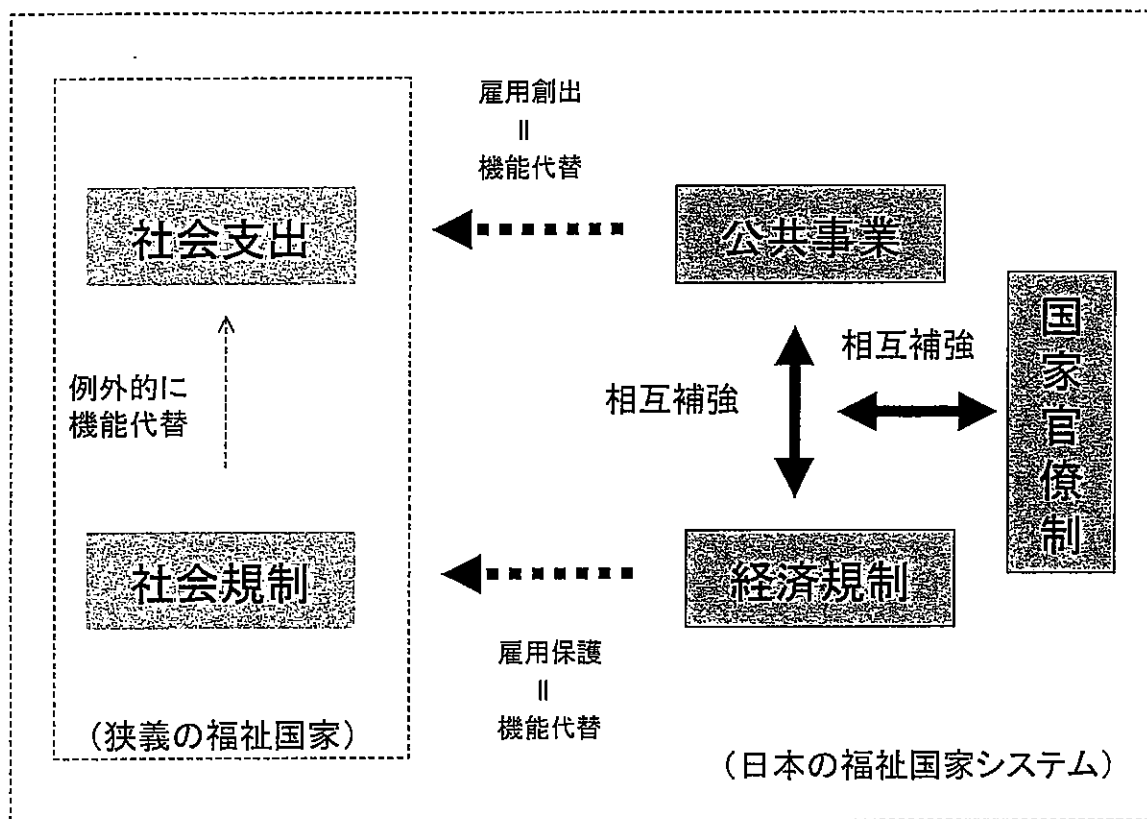
- レジーム論の前提
  - 西欧諸国の歴史分析と構造分析
- 3類型論の問題点
  - 非西欧諸国に機械的に適用する無理
    - 制度の表面的類似性 ← Diffusion
    - 制度の下部構造の相違
  - 「脱商品化スコア」の限界
    - 所得保障に限定 → 脱商品化手段の多様性
- レジーム論の正しい使い方
  - 日本社会に対する歴史分析と構造分析

6

# 20世紀後半における 日本の福祉国家レジーム

- 福祉政治
  - 社会民主主義の弱さ・国家官僚制の強さ
- 給付国家
  - 社会支出の少なさ・公共事業支出の多さ
- 規制国家
  - 経済規制の強さ・社会規制の弱さ

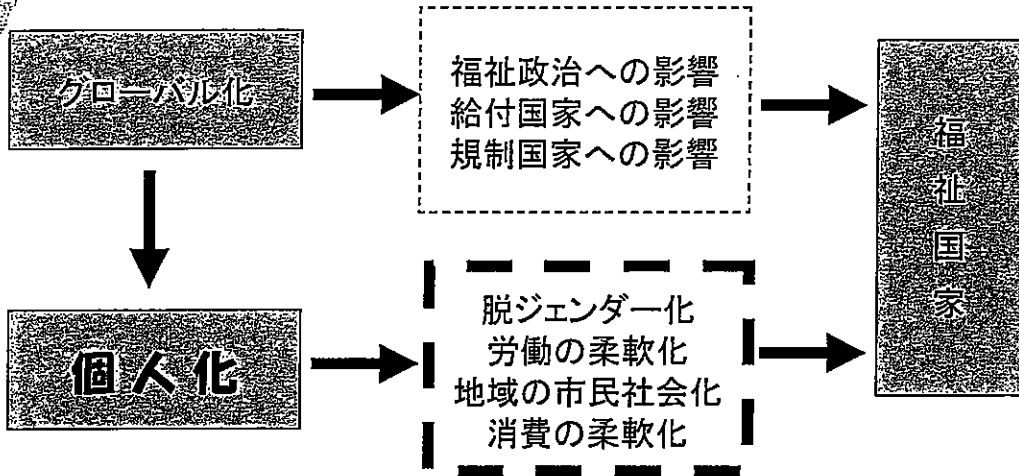
7



8

# 福祉国家のレジームシフト？

---



# 個人化とは？

---




## 個人化と分業

---

- 「個人がますます自立的になりつつあるのに、いよいよ密接に社会に依存するようになるのは、いったいどうしてであるか。個人は、なぜいよいよ個人的になると同時にますます連帯的になりうるのか。というのは、この二つの動きは矛盾しているようにみえて、実は並行してあいついでいるからである」
- E. Durkheim, 1892, *De la division du travail social*. (田原音和訳)

11



## 個人主義

---

- 「各人は主として、また一般に自己自身の幸福の最上の審判者である。このゆえに立法は、個人の自由な行動に対する制限であって隣人の同様な自由の確保に必要なでない者は、すべて撤廃することを目標とすべきである」
- A.V. Dicey, 1905, *Lectures on the Relation between Law and Public Opinion in England during the Nineteenth Century*. (清水金二郎訳)

12



## 個人主義から団体主義へ

---

- 「世論のすう勢は、30年ないし40年の間に、次第により力強く団体主義(collectivism)の方向へ進み、自然に、1900年までにはレッセフェールの教理が、その包容する多大な真理にもかかわらず、イギリスの人民の上に有する勢力を多少失なう結果を生じた」
- A.V. Dicey, 1905, *Lectures on the Relation between Law and Public Opinion in England during the Nineteenth Century.* (清水金二郎訳)

13



## 福祉国家の下での個人化

---

- 「すべての豊かな西側産業社会においてーとりわけドイツ連邦共和国においてー、第二次世界大戦後の福祉国家による近代化の中、前代未聞の射程範囲と力学をもった社会の個人化が始まった」
- U. Beck, 1986, *Risikogesellschaft auf dem Weg in eine andere Moderne.* (東廉・伊藤美登里訳)

14



## 個人化とは

---

- 最小単位の分割の過程＝帰属集団からの離脱の過程
  - 自立
  - 離脱
- 分解に伴う行為様式の変化

	自立	排除
家族		
職域		
地域		

15



## 個人化現象の諸相

---

### 自立と排除

16





## 個人化現象の諸相

---

- 家族の個人化
- 職域の個人化
- 地域の個人化
- ライフスタイルの個人化

17



## 家族の個人化(ベック)

---

- 「男性も女性も、個人自身が、生活世界における社会的なものの再生産の単位になるのである」
- 「個々人が、家族の内外で市場に媒介された自分の生活保障と人生計画および人生編成の行為者となるのである」

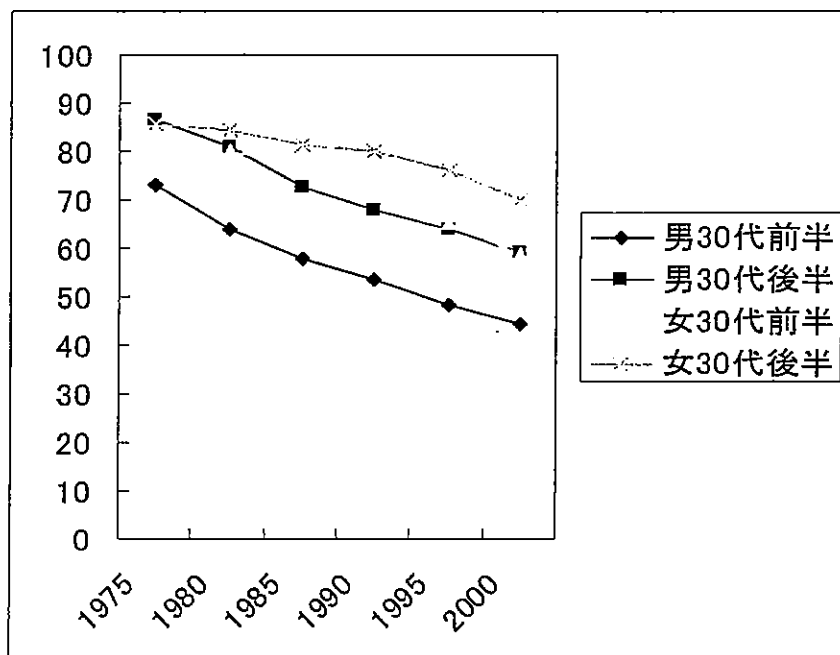
18

## 家族の個人化

- 家族形態の多様化 → 非家族の増加
  - 非婚・晩婚・離婚(落合恵美子)
- 男性稼ぎ主モデルの弛緩
  - 戦後家族モデルの微修正・解体(山田昌弘)
- 家族機能の変化
  - 私事化(家からの解放), 個別化(家族からの解放)(落合・山田)
  - 本質的個人化(ベック, 山田)

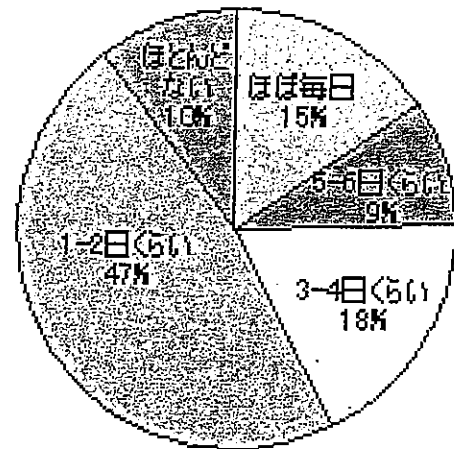
19

## 有配偶者比率 (東京都)



## 個食化

- Q2. 家族全員がそろって食べるのは1週間のうちのどのくらいですか



“食卓に関する調査“

<http://www.lifemedia.co.jp/release/pr040401.htm>

21

- Q10. 食事中の携帯電話の利用について、家族それぞれにあてはまるものをお答えください。(複数回答可)

	母	父	子
手の届くところに携帯電話を置いている	34%(68%)	34%(66%)	43%(76%)
着信メールを読む	20%(39%)	9%(19%)	25%(44%)
メールを送信・返信する	7%(14%)	5%(10%)	19%(33%)
電話に出て話す	18%(36%)	27%(53%)	15%(27%)
携帯電話は使用しない・もっていない	50%	49%	44%

※()内は携帯電話を食卓に持ち込む家族を対象に集計した数値

“食卓に関する調査“ <http://www.lifemedia.co.jp/release/pr040401.htm>

22



## 職域の個人化

---

- 労働市場の流動化
- 非典型雇用の拡大
- ボランタリー労働・「市民労働」(ベック)




集团的劳使関係の衰退  
企業保障の衰退



福祉政治への影響  
規制国家への影響  
給付国家への影響

23



## 労働の未来 Expo 2000

---

- 子どもを育てることは仕事である
- 雇用されて働くことは仕事である
- 売るために食料を作るのは仕事である
- 食べるために食料を作るのは仕事である
- 家事をすることは仕事である
- 教育を受けることは仕事である
- 他の人を助けることは仕事である

.....

田中洋子, 2004, 「労働の未来」『新しい社会政策の構想』より

24

## 地域の個人化

世帯単位の  
地縁集団

町内会・自治会・部落会  
青年団, 老人クラブ, PTA,  
消防団, 家族会, 等々



個人単位の  
ネットワーク

「有償ボランティア」  
ワーカーズ・コレクティブ,  
協同組合, NPO, 等々

25

## 消費の個人化

大量生産  
大量消費

**集団主義的で画一主義的な消費**



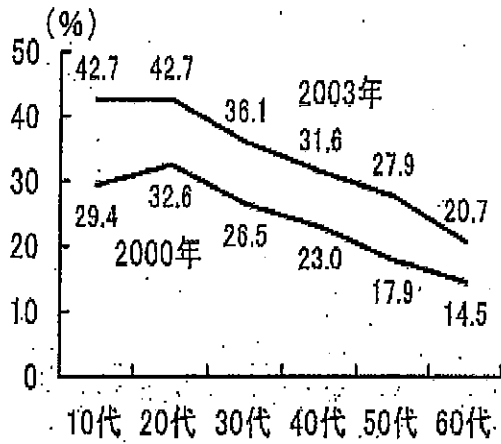
情報化  
消費化

**個人化された柔軟な消費**

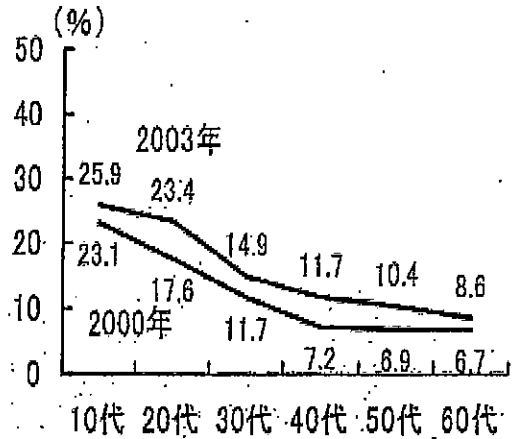
Ex. 日本の住宅公団の盛衰  
スウェーデンでさえも

26

### 自分のライフスタイルに こだわって商品を選ぶ



### 周りの人と違う個性的なものを選ぶ



出所) NFD「生活者1万人アンケート調査」(2000年、2003年)

日戸浩之「生活者行動調査にみる日本人の価値観・ライフスタイル」より

## 個人化現象への対応

### 再編と包摂



## 個人化の福祉国家への影響と対応

---

- 脱ジェンダー化
- 労働の柔軟化
- 地域の市民社会化
- 消費の柔軟化

29



## 福祉国家と家族の個人化との衝突

---

- ジェンダー化された福祉国家
  - 世帯単位の原則
  - 家族の神聖性
- 個人化によって顕在化する矛盾
  - 核家族からの離脱 = 社会保障からの排除
  - 世帯類型間のinequity
  - 家庭内問題の可視化

→ **福祉国家の脱ジェンダー化の要請**

30



## 福祉国家の脱ジェンダー化

---

- 給付国家の側面
  - 税制・社会保障の個人単位化
- 規制国家の側面
  - 機会均等政策・差別禁止政策
    - 労働市場
    - 社会生活
  - 家族への合理的な介入政策
    - Ex. DV, 虐待

31



## 労働の個人化と柔軟化

---

- 企業中心社会の弛緩
  - 企業保障のポータビリティ化
  - 企業保障の社会保障化
  - 企業保障の個人保障化
- 労働力の再商品化
  - 個別的労使関係の台頭
  - 就労と福祉との関連
    - ワークフェア
    - Flexcurity, Activation

32





## 地域の市民社会化

---

- 地域社会の変化
  - 構成単位の変化
  - 団体編成の変化
  - 社会関係の変化
- ローカルガバナンス
  - 地域福祉 (community based social policy)
  - 住民参加
  - Enabling state

33



## 消費の柔軟化

---

- 国家独占福祉の終焉
- 公共部門と民間部門の再編成

34



## 結び

---

35



---

個人化を前提としたとき、福祉国家は

- 脱ジェンダー化
- 労働の柔軟化
- ローカルガバナンス
- 消費の柔軟化

といった要請に応えなければならない。

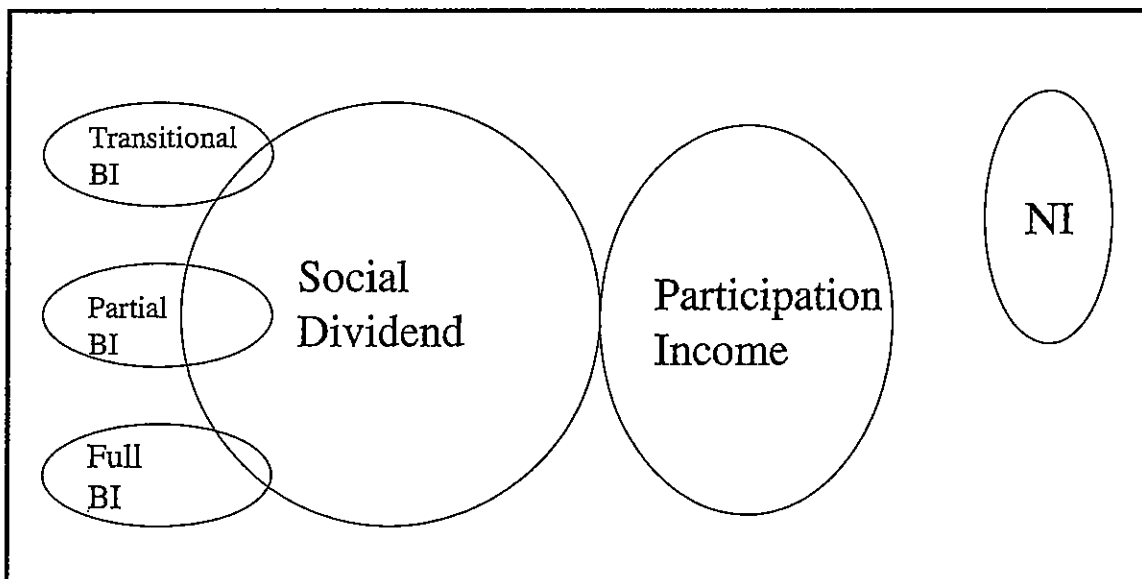
36

# 福祉国家再編の対立軸

- ワークフェア
  - Work first model
  - Service incentive model
- ベーシックインカム (BI)
  - 完全, 部分, 移行BI
  - 社会配当
  - 参加所得
  - 負の所得税

37

INSUFFICIENT



SUFFICIENT

UNCODITIONAL

CODITIONAL

Guaranteed minimum income schemes

Source: Fitzpatrick, T., 1999, *Freedom and Security*, Macmillan

38



## Atkinson's BI (Participation Income)

---

- **Work as an employee or self-employed:**
- **Reaching pension age:**
- **Inability to work on grounds of disability:**
- **Unemployed but available to work:**
- **Engaging in approved forms of education or training:**
- **Caring for young, elderly or disabled dependants:**
- **Undertaking approved forms of voluntary work, etc.**

Source: Fitzpatrick, T., 1999, *Freedom and Security*, Macmillan

39



## 新しい合意？

---

- BIにおける参加所得
- ワークフェアにおけるワークの意味の変化



**ワークフェアとBIの収斂？**



## ワークフェアとBIの収斂するところ

---

- 機会保障と参加のための社会的投資
  - 労働市場における労働能力を高める  
Employability
  - 社会的に有意義な活動を正当に評価  
Voluntary work
- ライフスタイルに中立的な社会政策



個人化現象の要請に応える